

近藤工業株式会社

技術難度の高い切削加工を実現し、 自動車業界に欠かせない唯一無二の存在へ

技術力と短納期で差別化



高精度・短納期を実現する高精度工作機械がそろう

近藤工業は、エンジン部品といった自動車部品の試作や、それに関連する治工具の設計製作を手がける。硬く削りにくい素材を1000分の1mm単位の精度で加工する、技術力の高さが売りだ。3代目として平成20年に就任した近藤徹社長は「他ができないことを実現して、顧客が求める欠かせない会社になる」との方針を掲げ、より難しい加工をより短納期で行う会社づくりを進めてきた。

その方向性を強めるべく近藤社長が導入したのが、1台の5軸加工機だ。軽量化や高耐久性など自動車に求められる性能が高度化する中で、加工難度の高い仕事の依頼が増えていたことが背景にある。また突出した技術を持つことで、新規顧客へのアピールにつなげたい考えもあった。新たな設備の導入により、技術的なノウハウを積み上げながら新規受注の獲得も達成。事業は順調に拡大した。一方で、生産能力が追いつかないという課題が出始めていた。

生産増と人材育成に着手

難度の高い加工物は面粗さや公差が厳しく、加工する面も多い。同社では立型マシニングセンターも活用して受注の伸びに対応していたが、5軸加工機に比べるとワーク（加工対象物）を付け替える回数は増える。工程数の増加は精度が悪化する原因となってしまうため、業務量に対応できるだけの設備を導入する必要があった。

同時にテーマとなっていたのが、若手人材の育成だ。同社は従業員の3分の1程度を20代が占める。モチベーションを向上しながら全体の技術力を底上げするためにも、若手が高度な技術に触れる機会を設け、難度の高い業務に挑戦できる環境を整えたいとする機運が醸成されていた。そこで「平成30年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」を利用して、新たな立型5軸マシニングセンター（MC）を導入。高度な設備を増やすこと



高度化を目指し導入した立型5軸MC

による、増産と人材育成という二つの課題の解消に乗り出した。

生産性向上と顧客増を達成

導入に当たっては専門チームを新設。CAD／CAMを手がける部門に若手を配置し、装置を取り扱える人材の教育に取り組んだ。「実際に難しい装置に触れるんだ、というのがモチベーションアップにつながった」（近藤社長）。装置を扱える人材は2倍に増え、設備の増設により生産量も倍になった。また5軸加工機ではワークの段取り替えが不要なため、長時間加工と無人化が可能になる。設備の稼働率も従来に比べ1.8倍になり、生産の効率化を実現。利益向上につなげた。生産余力ができたことが下支えとなり「挑戦できる機会も増えた」（同）。コロナ禍の令和2―3年でも、ウェブ商談などを活用することで1年間で新規顧客数は10社増加。納期の短縮にも貢献した。



CAD／CAM部門にも若手を配置

新分野に向け踏み出す一歩

次に見据えるのは、高度化した技術の標準化だ。「これまでは職人に頼る部分が大きかったが、全員がプロとして取り組めるようにしたい」（同）。加工の段取りやプログラムの作り方といった、それぞれの技術者が持つノウハウを見える化することで一般化し、若手への技術伝承を図る。さらなる技術の高度化にも取り組む。耐熱性や軽量化ニーズにより需要増が期待できる、セラミックの加工にも挑戦していく方針だ。硬度が高いために割れやすく切削加工が難しい素材だが、近藤社長は「ニッチかつ既存の技術が生かせると同時に、加工できる会社は少ない」と、取り組む意義を説明する。

「顧客第一主義」を掲げる近藤社長。「治工具・試作屋の役割は『モノ助け』だ」とし、「とにかく精度の良い物を早く提供して顧客の困りごとをなくしたい」。モノづくり業界で不可欠な存在となるべく、さらなる発展を誓う。



次世代を担う技術者育成にも力を入れる

企業データ

企業名	近藤工業株式会社(こんどうこうぎょう)
代表者役職名・氏名	代表取締役社長 近藤徹
設立年月日	昭和50年1月10日
住 所	〒448-0813 愛知県刈谷市小垣江町池上58番地
電 話	0566-23-3231
FAX	0566-23-3259
URL	https://kdmfg.co.jp
E-Mail	info@kdmfg.co.jp
資本金	1000万円
業 種	試作品、治具部品、組み付け設備などの設計製作
従業員数	34人



難加工品の短納期化を進める近藤徹社長